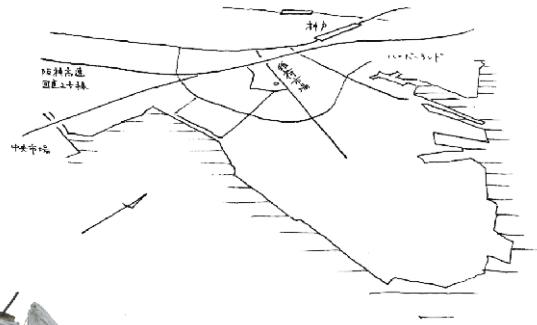


# まちのレシピ その⑤

まちをつくるには建築だけではありません。コミュニケーションも大切な要素のひとつ。

今回は、材料をそろえてから素材を「しこむ」様子をご紹介しましょう。

文・写真=赤松麻衣 住みコミュニケーションプロジェクト広報担当

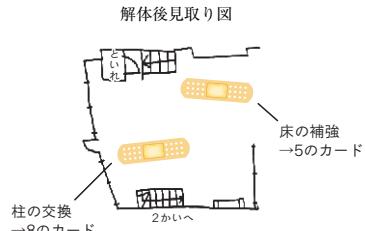


## 1 今回のお題

{ 素材の  
しこみ方 }

住みコミュニケーションプロジェクト

## 2 一階しこみ箇所



必要な材料や工具がそろい、補強工事のはじまりです。1階は床の亀裂と、腐った柱を新しくするのが補強のメイン。新しい空間にするために、素材を整えます。

## 3 補強開始

はじめに、地震でひび割れてた床の補強から。コンクリートでできている床にはいくつもの亀裂が走っていました。それをひび割れに沿ってきれいにはがし、新たなコンクリートを流し込みました。コンクリートを扱う作業は体力勝負。水分調整が難しいだけでなく、気温・作業時間も仕上がりに影響してくるのでとても気を使いました。

作業は『もしもし』の先輩である「住みの素（専門的な知識を持つプロジェクトのスタッフ）」の新出真也さんが的確にアドバイスをしてくれ、順序よく進んでいきました。

## 4 今月の逸材



新出真也さんは大学卒業後、設計事務所で働いています。住宅の設計などを手がけているので、構造に関しての知識が豊富。とても頼りになる兄貴分です。

## 5 コンクリート打設



まずはこねる、ならすの繰り返しです。たちまち足場がなくなり、はしごを渡してひと工夫。コンクリートを流し終えたら、まちの猫たちも立ち入り禁止です。

## 6 ほっと一息



遅くまで作業が続く中、チャルメラの音がまちに鳴り響きました。屋台のおじさんを追いかけて、湯気のあるラーメンを待つ。これも下町ならではの風景です。

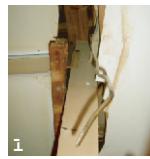
## 7 腐った柱

解体作業中、柱の一本が腐って折れていることに気がつきました。その柱は長く、容易に入れ替えができません。そこで2階の床をはぎとり、引っこ抜きました。次に新しい柱を立てる作業。しかし天井でつっかえてしまい、1階から立てることができません。2階まで運びこんで梁との噛み合いを調整し、やっとの思いで入れ替えることができました。

そして、新しい柱を支える基礎を土間の淵となる箇所と重ね合わせます。淵全体を鉄筋コンクリートにすることで、腐っていた柱が強い柱に大変身しました。

## 8 柱と壁のレシピ

### 作り方



梁に垂直になるように  
杉の角材を立てる



防腐のため根元をベンキ  
塗りし、アルミで覆う



柱の間に垂木を組み、コ  
ンパネをはり付ける



はり終えたら、新しい柱  
の入った壁の完成

### 準備するもの

杉の角材／ $10 \times 10$ cm、コンパネ／壁量、垂木／ $4 \times 4$ cm、ベンキ／少量、アルミホイル／少々、下げ振り／ひとつ、釘／適量、さしがね／適宜（下げ振り…糸の先に円錐形の鉤を付けたもので、垂直度を調べる工具）

次回は「チカちゃんハウス」2階の工事の様子を紹介します。